

包皮環状切除術についての説明同意書

患者

様に以下の内容について説明致しました。

1. 病名と進行度

病名：()真性包茎 包皮に狭いところがあり、包皮の用手的翻転が困難で亀頭を露出できません。
()反復性亀頭包皮炎 包皮は翻転可能ですが、亀頭包皮炎を繰り返しています。

2. 症状とその原因

包皮に狭いところがあり、包皮の翻転が困難です。亀頭と包皮の間に垢や炎症を生じやすく、尿路感染やがんのリスクが上昇します。

3. 検査・治療の必要性と目標

軟膏塗布で翻転を試みる方法はありますが、根治的には手術療法しかありません。目標は亀頭が非勃起時にも亀頭が露出した状態とすることです。

4. 検査・治療の具体的方法、施行日と治療に必要な期間 手術日： 年 月 日

局所麻酔下に包皮環状切除術を行います。包皮を亀頭の下の内板と外板の 2 か所で環状に切開して間の余剰包皮を切除します。包皮内板と外板を全周性に縫合します。包皮の長さは、非勃起時にも(1. 亀頭が完全に露出するように短くします。 2. 包皮が少し亀頭にかかるぐらいにしておきます。)手術時間は 1 時間半程度です。

5. 検査・治療にともなう合併症とその危険性や後遺症

手術の合併症として、発熱、感染、出血、包皮の突っ張り等があります。出血がある場合は、緊急で止血が必要となる場合があります。陰茎の腫脹(はれ)も術後しばらく続きますが、徐々に軽快していきます。傷跡、痛みはある程度さげられません。麻酔の合併症として、薬剤に対するアレルギーなどがあります。

6. 術後の注意事項

- ① 手術翌日は可能な限り、外来受診していただいて創の観察をします。
- ② 傷のドレッシングは、術後 3 日目以降は、なしのままで大丈夫です。
- ③ 創からの出血が止まらないときや膿が出てきたときや痛みが強い時などは、早めに連絡して外来受診してください。
- ④ 性的刺激は避けて勃起しないように心がけてください。
- ⑤ 性行為やマスターベーションは術後 2 週間以上経過して傷が完全に治ってから行ってください。

7. 当院での検査・治療の実績

当院での手術経験はありませんが、院長は病院で多くの患者さんで手術経験があります。

8. 医療の不確実性について

多くの診療行為は身体に対する影響・侵襲(ダメージ)を伴います。ですから検査や治療はそれによって得られる利益が身体に与える不利益をしのぐと判断した場合にのみ行われます。しかし、医療は万能ではなく、常に不確実な要素を含んでいますので、誠意を持って注意深く診療行為にあたってとしても、貴方に重大な合併症や事故が起こる可能性があります。診療行為の過程で、治療している疾患と関係のない偶発症が発生することもあります。もしそのような状況に遭遇すれば、最善を尽くして治療に当たります。

西暦 年 月 日

つじ泌尿器科クリニック

担当医(署名)

立会人(署名) 看護師

つじ泌尿器科クリニック院長殿

上記の検査・治療について説明書に基づく説明を受け、疑問点についても質問し、内容に納得しましたので、その実施に同意します。なお、検査・治療中あるいは後に緊急の処置を行う必要が生じた場合、これを受けることについても同意します。

西暦 年 月 日

患者本人署名

代理人署名

続柄()